

事業報告書

事務局経営戦略課

1 法人の管理運営事業

評議員選定委員会を1回(6月16日)、定例評議員会を1回(6月26日)、定例理事会を2回(6月4日・3月18日)のほか、臨時評議員会を1回(3月27日)、臨時理事会を2回(6月26日・3月30日)開催した。

指定管理業務の円滑な運営のため、宮崎市、宮崎市教育委員会の各担当部署並びに各施設との綿密な連絡調整を行った。

また、公益法人として、定款及び規則に定めた人事・財務などの所掌事務を適切に行った。

2 研修事業

内部研修・・・職員の資質向上のため、年間研修計画に基づき、研修を実施した。

階層別研修、特別研修(健康管理研修、広報研修)などを実施した。

研修回数 14回 職員参加者数 延べ 132人

外部研修・・・博物館協議会研修会などに参加した。

また、全国公益法人協会の簿記会計講座、公正取引委員会による入札談合の講習会、全国科学連携協議会の著作権等の研修に参加した。これらの研修は、市外旅費を伴うことから参加者が少人数に限られていたが、インターネットによるWeb会議システムを活用し、多くの職員(延べ31名)の受講が可能になった。

3 健康管理事業

職員の健康管理のため、影山医師に産業医として委嘱、産業医による健康相談を各施設で合計4回実施した。

4 その他

定款に定める目的を達成するため、協会横断的な以下の事業を行った。

(1) 処遇の改善

令和3年4月1日から「パートタイム・有期雇用労働法」が中小企業に対して適用されることに伴い、当協会においても無期雇用フルタイム職員と有期雇用・非常勤職員との間で不合理な待遇差を解消するための検討・見直しを行い通勤手当・住居手当を改訂した。

また、育児介護休業法の改正および厚生労働大臣の「子育てサポート企業」認定(愛称「くるみん認定」)を受けるための処遇の改善を図るために育児休業等に関する規則の改正を行った。

さらに育児介護休業法の改正により、介護休業等に関する規則改正を行った。

(2) 協会機関誌「まなぶんか」の発行

1市2町（宮崎市・綾町・国富町）に向け、科学や歴史・文化に関するタイムリーな話題を随時提供しながら、季節ごとのイベントの紹介や、イベントの背景や見どころなどを詳しく紹介する協会機関誌を年4回発刊し、宮崎市、県内の教育委員会・小学校・中学校・各支援学校・博物館等施設、1市2町の幼稚園・保育園・宮崎銀行各支店・小児科医院、宮崎科学技術館「友の会」会員、入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、季刊で各6,000部（年4回）

(3) 公益財団法人宮崎文化振興協会モニターによるモニタリング

来館者に限らず、広く地域住民のご意見をお伺いし、次の事業展開や施設管理に反映させるため、1市2町の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会の施設運営への意見をいただいた。

なお、毎年意見交換会は2回実施しているが、11月の意見交換会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、3月の意見交換会では各種事業や各施設の改善点等を報告した。

意見交換会 1回 モニター人数 17人

(4) 子どものための音楽会の開催

様々なジャンルの音楽の生の演奏や音色に触れ、乳幼児の情操を育むため、演奏会を、複数の施設を管理運営する利点を生かし、年間を通して各施設において開催した。

なお、大淀川学習館で予定していた音楽会は、中止となった。

実施回数 3回 参加者数 延べ 271人

(5) 1日子ども館長の実施

子どもたちが「1日子ども館長」として「職」を体験することで、「働く」という意識や当協会が広く啓発する科学・自然・歴史・文化に興味関心をもつとともに、将来の職業意識を醸成するため、当協会が管理運営する各施設において、科学・歴史・芸術文化分野の体験活動を実施した。

実施回数 4回 参加者数 16人

(6) 教育施設としての施設利用推進事業

学校利用ガイドブック改訂を行った。

(7) 学術・科学技術・文化・芸術振興のための研究事業の実施

学術及び科学技術、文化等の普及・啓発・振興を図るとともに、職員の職務能力の向上のため、指定管理する施設の発展や業務達成に貢献できると認められる研究を実施し、その費用の一部又は全部を補助した。

また、令和3年2月17日（水）に研究事業成果発表会を開催し、応募研究の中から優秀研究を選出し、研究事業表彰式を実施した。

研究本数 10本 研究者数 延べ20人

宮崎科学技術館

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和2年度においても展示室、パソコン研修及びプラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	220日	プラネタリウム投映日数	203日
入館者数	49,827人	利用者数	19,014人
1日平均入場者数	226人	1日平均利用者数	94人

※台風による臨時休館 1日間 (9/6)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館 95日間

(4/7~5/17、7/25~8/17、1/9~2/7)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止によるプラネタリウム投映中止 112日間

(4/4~5/31、7/25~8/17、1/9~2/7)

また、プラネタリウムは入場人数を制限し、換気の時間をとるため、投映回数を減らして運営。

その他、各種イベントも中止・入場制限を行った。

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	26,673人 (53.5%)
大人	23,154人 (46.5%)
合計	49,827人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	40,954人 (82.2%)
団体	8,873人 (17.8%)
合計	49,827人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内(宮崎市・国富町・綾町)

幼稚園・保育所	1,453人 (28.7%)
小学校	3,038人 (59.9%)
中学校	192人 (3.8%)
高等学校	95人 (1.8%)
小・中学校合同	183人 (3.6%)
一般	110人 (2.2%)
合計	5,071人

・広域圏外（宮崎県内上記以外）

幼稚園・保育所	305人（8.3%）
小学校	3,123人（84.8%）
中学校	159人（4.3%）
中高合同	46人（1.2%）
一般	52人（1.4%）
合計	3,685人

④ 県外団体利用内訳

幼稚園・保育所	25人（21.4%）
小学校	29人（24.8%）
一般	63人（53.8%）
合計	117人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	5	117	100
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
台湾	0	0	0
ブラジル	0	0	0
合計	5	117	100.0

⑥ 九州・沖縄内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	3	66	56.4
沖縄	2	51	43.6
合計	5	117	100.0

2 常設展示事業

世界に2基しかないアポロ11号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物の他、先端科学技術を集約した展示物は約100点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気付くことに努め、科学に対する興味・関心を高めさせることができた。

特に、経年劣化が見られる展示物については、コストを抑えつつ修繕を行うなど、最大限の維持と活用に努めた。

3 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学する心」を育てるためのサイエンス教室や、高齢者と一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、JSC（教育ボランティア）や宮崎大学の自然科学体験学習の学生と共に実施した。

① チャレンジサイエンス	実施回数	19回	参加者数	延べ	2,276人
② ダ・ヴィンチ工房	実施回数	3回	参加者数	延べ	16人

③	生きがい科学館	実施回数	6回	参加者数	延べ	56人
④	不思議なサイエンスショー	実施回数	6回	参加者数	延べ	377人
⑤	宮崎少年少女発明クラブ	実施回数	14回	参加者数	延べ	378人
⑥	どろだんご教室	実施回数	1回	参加者数	延べ	11人
⑦	一般公開教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	163人
⑧	自由研究サポート教室	実施回数	0回	参加者数	延べ	0人
⑨	なんでもサイエンス(インストラクター)	実施回数	10回	参加人数	延べ	643人
⑩	コスモランド教室	実施回数	2回	参加人数	延べ	149人
⑪	サイエンス親子学習教室	実施回数	0回	参加人数	延べ	0人

(2) パソコン講座

子どもたちがパソコンに対する興味・関心を高めることを目的とした講座を実施した。

すいすいパソコン 実施回数 15回 参加者数 延べ 235人

(3) プラネタリウム親子学習教室

学校での天文学習の補充と深化を目的に、小学4年生及び6年生向けの学習プログラムを行った。事後の感想も好評であった。中学生向けのプログラムは計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり中止となった。

実施回数	小学4年生対象	2回	参加者数	延べ	123人
	小学6年生対象	2回	参加者数	延べ	21人
	中学生対象	0回	参加者数	延べ	0人

4 プラネタリウム事業

九州最大級である直径27mのプラネタリウムに3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。令和2年4月4日(土)～5月31日(日)、7月25日(土)～8月17日(月)、令和3年1月9日(土)～2月7日(日)の期間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、投映中止となった。

入場者数 延べ 19,014人
 投映回数 529回

(1) 一般番組

- ・永久投映権をもっている番組
 - 「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」
 - 「今夜銀河の片隅で」「DARK」「宇宙への旅」
 - 「宇宙のエネルギー」「ピーターパン」「太陽」
- ・令和元年度から引き続き投映した番組
 - 「忍たま乱太郎 月ウサギがクレーターをかけるの段」「えんとつ町のプペル」
 - 「ポケットモンスター サン&ムーン」「こぐま座のティオ」
- ・令和元年度・令和2年度から投映した新番組
 - 「クレヨンしんちゃん」「名探偵コナン1」「名探偵コナン2」「ノーマン・ザ・スノーマン1」
 - 「宇宙への第一歩」「HAYABUSA2」「クリスマスファンタジー」

(2) 学習番組

「ピーターパンとほしのくにへいこう」(幼児向け)

「スタジオ444」(小学4年生向け)「ポワンとフーニャンの宇宙調査隊」(小学6年生向け)

「この空に願いを込めて…」(中学生向け)

(3) 自主制作番組

「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

(4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらうよう努めた。

実施回数 6回 参加者数 延べ 315人

※ 4、5、8、1月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(5) おはよう太陽・月の観望会

夏休み期間中に、午前中に見える日中の太陽・月を望遠鏡で観望した。日中の青空の中に見える白い月に、子ども達が驚く様子が見られた。

実施回数 1回 参加者数 延べ 60人

(6) スターウォッチング教室

宮崎市、綾町、国富町の団体を対象に、応募団体の希望の会場に出向き、天体の基礎的な学習と天体観察を行った。望遠鏡などを用いた体験から、天文や宇宙に興味・関心をもつていただくように努めた。

※ 実施回数5回を予定していたが、すべて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(7) スターウォッチング in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、市街地(橘通3丁目交差点 MRTテラススタジオ前広場など)での観望会を計画した。しかし、すべて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

実施回数 0回 参加者数 延べ 0人

※ 実施回数4回を予定していたが、すべて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(8) キッズアワー

幼児向けのプラネタリウムとして、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが楽しめる内容の星や星座の話と、幼児向けの番組の投映を行った。

実施回数 11回 参加者数 延べ 714人

(9) 特別投映

神武大祭に合わせて、特別投映を行った。当館の自主制作番組「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」を投映し、合わせて天文と日向神話の親和性について職員が準備した映像等で解説を行った。

実施回数 5回 参加者数 延べ 111人

(10) 部分日食観望会

宇宙・天文への興味関心の向上、天文現象を身近に感じてもらうことを目的として「部分日食」の観望会を6月21日(日)に計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、観望会を中止し、Instagramを使用したライブ配信を行った。

(11) 星空継続観察事業「みやざき星空大調査」

環境省の推進する星空継続観察事業の一環として、星空観察を通じて光害(ひかりがい)や大気汚染等に気づき、環境保全の重要性について関心を深めていただくこと、良好な大気環境や美しい星空を地域資源(観光や教育)としても活用していただくことを目的に観察会を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とし、職員のみで調査観察を行った。

入場者数 計 0人

5 文化振興事業

(1) 星空と音楽の夕べ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家の活動の場を提供するとともに、市民文化活動高揚に資するため、プラネタリウムホールで開催した。音楽の生演奏とCD音楽の解説という2部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 1回 参加者数 延べ 37人

※ 9月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(2) キラキラ星空コンサート

「星空と音楽の夕べ」より気軽に楽しんでもらおうと、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを実施し、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の人に楽しんでもらった。

実施回数 1回 参加者数 延べ 81人

※ 5月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(3) 星空さんぽ in プラネタリウム

多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすくするために、星空の生解説を含め、魅力的なテーマを設定した投映を行った。職員でテーマに合わせた映像や参加型の企画を準備し、来館者が、より星空に親しめる内容にした。更に、2月開催分については、希望者に屋外で星空観望会も実施した。

実施回数 5回 参加者数 延べ 291人

(4) スターフェスティバル

多目的ホールを利用して、来館者を対象に、「はやぶさ2の大冒険」をテーマに、小惑星探査機はやぶさ2などについてのパネルの展示に加え、塗り絵コーナー、クイズラリーなど体験型の企画も導入した。天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらえるよう努めた。

実施回数 1回(16日間) 参加者数 延べ 1,753人

(5) えほんの読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用と子ども達の情操教育を目的として、幼児から一般を対象に、絵本の読み聞かせを毎月、実施した。ドームシアターを利用して、絵本を大きく投映し、動画等の映像による演出をすることで、プラネタリウムホールを幅広く体感してもらうように努めた。

実施回数 2回 参加者数 延べ 122人

※ 4月～1月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

6 イベント事業

(1) 主催事業

①こいのぼり掲揚式

近隣の幼稚園・保育所を招き、正面玄関前でこいのぼり掲揚式を行う予定だったが、中止。ただし、後日、招待した園児に用意した手作りのこいのぼりをプレゼントする。

開催期日 令和2年 4月17日(金)

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、閉館中止。

②「科学と遊ぼう！こどもの日」

全館を無料開放し、こどもの日にちなんだ多彩な催しを実施する。

開催期日 令和2年 5月 5日(火・祝)

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、閉館中止。

③地球を守ろう環境展(第12回)

地球環境や命の大切さについての興味・関心を高めてもらうために、科学技術映像祭入選作品「どこに ひなんすればよいの? 南海トラフ地しん 大つ波がくる」を上映した。また、みやざきエコの会及び当館職員によるワークショップを行うことでより充実した内容になった。

開催期日 企画展 令和2年 6月 2日(火)～ 6月21日(日)

ワークショップ 令和2年6月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、20日(土)

入場者数 延べ 2,377人

④第61回科学技術映像祭入選作品上映会

日本科学技術振興財団等の主催による科学技術映像祭の入選6作品を上映した。質の高い映像から科学技術への関心が喚起され、その普及について啓発することができた。

本年度は

開催期日 令和2年 6月 2日(火)～ 12月27日(日)

入場者数 延べ 39,913人

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館となった日があり、例年より上映期間を約4か月延期して実施。

⑤スペシャルサイエンスショー

子どもたちの科学への興味・関心を育むことを目的に、インストラクターが企画しサイエンスショーを開催した。

開催期日 令和2年7月24日（金・祝）

入場者数 計 148人

⑥極地パネル展及び南極の氷贈呈式&実験ショー（新規事業）

北極や南極にまつわるパネル展示や、マジックアースによるオーロラ現象を提示した。また、南極クラスを開催し、越冬隊員による南極の講話及び南極の氷贈呈式を行った。さらに、夏季休業中に当館の職員による南極の氷に触れ合う体験を実施した。

開催期日 パネル展 令和2年 6月30日（火）～ 7月12日（日）

贈呈式 令和2年 7月 4日（土）

入場者数 延べ 1,575人

⑦命の科学フェア

「なるほど！なっとく！人体の科学ゾーン」で心臓マッサージ体験や心電図検査などと、起震車の見学など体験を通じた学習を計画した。命について科学の目で考える機会となった。

開催期日 令和2年 7月19日（日）

入場者数 計 457人

⑧青少年のための科学の祭典2020宮崎大会

小中学校・高校の理科教諭、大学関係者と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる実験ブースの出展をし、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学および科学技術に対する関心を高める活動を実施する。

開催期日 令和2年 8月 8日（土）・9日（日）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑨教員のための博物館の日

教職員や大学の教育学部生、博物館関係者を対象に博学連携を目的としたワークショップを宮崎科学技術館で行う。

開催期日 令和2年 8月 6日（木）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑩教員のための科学実験講座（新規事業）

学校の授業において、子どもたちへ科学的な発想を豊かにするための科学実験の題材や方法を学ぶ場として、小学校教諭向けの科学実験講座を実施する。

開催期日 令和2年 8月 7日（金）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑪ J S C フェスティバル

敬老の日までの3日間、J S Cによる科学実験や工作教室を実施した。

開催期日 令和2年 9月19日(土)～21(月・祝)

入場者数 延べ 598人

⑫ 科学技術館シルバーdays (無料開放日)

敬老の日にならみ、全館無料開放を実施する。

開催期日 令和2年 9月21日(月・祝)

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、有料入館に変更。

⑬ 子どものための音楽会 (事務局経営戦略課事業)

乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの生演奏により開催した。需要が高くたくさんの方の来場があった。

開催期日 令和2年10月21日(水)

内 容 「笛箏ユニット SKY」による演奏

参加者数 計 69人

⑭ 名月展

中秋の名月に合わせて、月の姿の魅力や、最新の観測で解明しつつある月の話題について、写真やパネルを展示した。すでに実施した企画展等のパネルや、映像を活用し、月の話題に特化した企画展が実施できた。また、中秋の名月大観望会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。しかし、本館屋上から中秋の名月のライブ配信を行ったが、視聴者から好評であった。

開催期日 令和2年 9月25日(金)～ 10月11日(日)

入場者数 延べ 1,812人

⑮ ナイトミュージアム

ハロウィンに合わせて、館内を夜間開館していろいろな仕掛けやクイズラリーなどを実施した。参加者には「月面着陸に成功して50年、もう一度月…」を題材に、様々な訓練と称する体験を通して楽しんでいただいた。体験には、科学の現象や館内の展示物、プラネタリウムの映像を活用した。

開催期日 令和2年12月19日(土)、26日(土)

入場者数 延べ 189人

⑯ 1日こども館長 (事務局経営戦略課事業)

科学及び科学技術に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和2年10月4日(日) 10:00～15:00

参加費 500円(保険・昼食代込)

参加者数 5人(4年生2人、5年生1人、6年生2人)

⑰令和2年度宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした絵画作品を展示した。小・中学生から182点の応募があり、内21名の入賞者を対象に、表彰式を実施した。本年度は中学生(田野中学校2年生)の作品がグランプリ受賞となった。

開催期日 令和2年11月20日(金)～12月13日(日)
表彰式 令和2年12月6日(日)
入場者数 延べ 1,326人

⑱サイエンスカフェ(サイエンストーク)

各種イベントと関連のある科学者を招き、その開催時期に合わせて、サイエンスカフェを計画した。

※ 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑲企画展「4D-VR展」(新規事業)

先端技術であるVRを開発した地元企業の協力を得て、来館者に最先端技術の仕組みを紹介する展示物や実際に4D-VRを体験できる機会を設け、先端科学技術に興味・関心をもたせる企画展を行った。

開催期日 令和3年3月27日(土)～4月6日(火)
入場者数 延べ 3,621人

⑳アウトリーチ事業

館外で実験教室や授業支援を行い、教育施設の支援や、イベントや市街地の活性化の取組みを支援する。

- ・カーリーノアウトリーチ4月
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・若草通り「街市」5月
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・若草通り「街市」7月
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・カーリーノアウトリーチ8月
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・宮崎駅 鉄道の日感謝祭
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・未来みやざき子育て応援フェスティバル2020
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・ガス展
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・カーリーノアウトリーチ11月
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・若草通り「街市」11月
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、規模縮小のため不参加。

- ・カーリーノアウトリーチ 1 2月
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・カーリーノアウトリーチ 2月
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ・若草通り「街市」 3月
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑪ インターンシップ、職場体験

中学生の職場体験学習及び、高校生や宮崎市のインターンシップや社会教育実習の受入れをし、青少年の健全育成に貢献するとともに、当館の運営や事業、業務に理解をしていただく機会とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中学校・高等学校等が中止。

ただし、学芸員資格取得実習のため、宮崎大学4年生6名を夏季休業中に受け入れた。また、インターンシップとして、大原簿記公務員専門学校生6名及び宮崎情報ビジネス医療専門学校生2名を受入れ実施した。

参加者数 延べ 14人

⑫ 宮崎市教育委員会教職員初任者研修

宮崎市に勤務する教職員初任者に対して、教育施設を活用した事業づくりについての研修を行い、実践的指導力を向上させる機会とした。

開催期日 令和2年11月5日(木)・6日(金)

参加者数 26人

⑬ 宮崎大学理科教育基礎研究フィールドワーク授業

地域の科学館におけるフィールドワークを行い、学校外の関係機関と連携した理科学習を探ることを目的に施設の概要及び管理運営、展示物解説、プラネタリウム視聴を行う。

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

⑭ 宮崎大学展示論講座

学芸員の資格取得に必要な授業科目として、『「博物館に学ぶ」モノの見方と見せ方(博物館展示論)』があり、当該授業の一環として、見学研修を実施した。

開催期日 令和2年12月20日(日)

参加者数 56人

(2) 共催事業 () は主催者名

- | | |
|---|--|
| ①航空教室
(航空大学校) | 実施日 令和2年 9月12日(土)
入場者数 延べ 27人
※ 冬の航空教室は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。 |
| ②宮崎地区サイエンスコンクール展
(科学夢チャレンジ事業宮崎地区実行委員会) | 実施日 令和2年 8月29日(土)～ 9月 6日(日)
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。 |
| ③県学校発明くふう展
(宮崎県発明協会) | 実施日 令和2年10月16日(金)～ 18日(日)
入場者数 延べ 501人 |

- ④宮崎市中学校硬筆・毛筆展
(宮崎市中学校書写部会) 実施日 令和2年11月 3日(火・祝)～23日(月・祝)
令和3年 1月13日(水)～24日(日)
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。
- ⑤水辺のテーブル
(水辺リング宮崎) 実施日 令和2年9月4日(金)
※ 雨天のため、中止。
- ⑥コスミックカレッジ
(宮崎ハマユウ会) 実施日 令和2年11月7日(土)
入場者数 22人

宮崎市歴史資料館

【宮崎市生目の杜遊古館】

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和2年度の宮崎市生目の杜遊古館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の円滑な運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	212日
入館者数	14,755人
1日平均入館者数	70人

※台風による臨時休館(9/6)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館(4/7~5/17、7/29~8/30、1/9~2/7)

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人	4,393人(29.8%)
大人	10,362人(70.2%)
合計	14,755人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人	11,129人(75.4%)
団体	3,626人(24.6%)
合計	14,755人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	192人(6.8%)
小学校	1,165人(41.4%)
中学校	111人(4.0%)
一般(参考)	1,342人(47.8%)
合計	2,810人

・広域圏外

幼稚園・保育所	0人(0%)
小学校	748人(100%)
中学校	0人(0%)
一般(参考)	0人(0%)
合計	748人

④ 県外団体利用内訳

一般	68人(100%)
小学校	0人(0%)
中学校	0人(0%)
合計	68人

⑤ 県外地域別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
近畿	0	0	0
中国	0	0	0
中部	0	0	0
関東	4	68	100
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	4	68	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

展示室1では旧石器時代から近現代に至る宮崎市域の歴史について、展示室2では令和2年9月30日に国重要文化財に指定された「下北方5号地下式横穴墓出土品」について、展示室4では隣接する国指定史跡生目古墳群や宮崎市内の遺跡から出土した埋蔵文化財について展示・紹介している。開館当初、常設展示は現展示室4のみであったが、同年9月19日に展示室1・2および企画展示室となる展示室3を新設する形でリニューアルオープンした。

3 企画展示事業

(1) 企画展『顔・かお・カオ!』

「佐土原人形」や「花見神楽面」、「大石兵六夢物語」といった宮崎市歴史資料館の収蔵資料や、「犬頭形土製品」や「土偶」といった宮崎市内の遺跡から出土した埋蔵文化財などを中心に、「顔」や「表情」を持つ様々な資料を展示した。

開催期日 令和2年 10月24日(土)～12月 6日(日)

入場者数 延べ 5,632人

(2) 企画展『文化人が歩いた宮崎』

江戸時代から近代にかけて、宮崎県内を訪れた歌人や文豪、修験僧などにまつわる史跡や石碑等を写真パネルで紹介した。

開催期日 令和3年 2月9日(火)～3月14日(日)

入場者数 延べ 1,671人

※当初計画では、開期は1月23日(土)～3月7日(日)の予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館(1/9～2/7)のため、延期開催となった。

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 講座

①歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、当館館長や学芸員のほか、専門家の方々を講師として実施した。

実施回数 6回(昨年度延期回を含む。但し、本年度延期となった回は次年度開催)

参加者数 延べ 239人

②展示リニューアル講座

展示室のリニューアルオープンに伴い、展示室1の展示を担当した宮崎市教育委員会文化財課職員5名を講師として、旧石器・縄文・弥生時代、古代、中世のコーナーの展示資料等に関する講座と展示解説を行った。

実施回数	5回
参加者数	延べ 181人

③古文書講座

宮崎県立図書館の史料筆耕解説員を講師として、『女実語教』や『御仕置五人組帳』等の解説演習を行った。

実施回数	5回
参加者数	延べ 121人

(2) 歴史探訪

地域の文化財に対する理解と関心、愛護意識を深めることを目的として、宮崎市広域圏内の史跡や有形文化財を訪ね、学芸員が案内と解説を行った。

実施回数	3回（第1・2回、第3・4回がそれぞれ同じコース）
参加者数	延べ 30人

※第3回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止

(3) 体験学習・個人体験プログラム

「いにしへの鏡作り」等の古代のもの作り体験や昔の人々の暮らしに関連した「ミニ門松作り」等の製作体験を行うもので、子どもと保護者・一般の参加者を対象に実施した。また、土・日曜・祝日の来館者（団体を除く）を対象として、勾玉作りや埴輪作りを体験できる「個人体験プログラム」を実施した。

体験学習	実施回数	13回（13講座）
	参加者数	延べ 296人

※第1～3回、第15～16回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止

個人体験	実施回数	41回（6～3月）
	参加者数	延べ 265人

(4) 学校教育等との連携

学校教育や幼児教育への支援として、勾玉づくりや土笛づくり、史跡ウォークラリーといった体験活動や展示室・生目古墳群見学などのプログラムを実施した。利用の目的としては、社会科見学や遠足のほか、新型コロナウイルス感染症の拡大に関連し、宮崎県内小学校の修学旅行先として多くの利用があった。

小中学校	来館校数	24校
	参加者数	延べ 2,024人

幼稚園・保育所	来館園数	7園
	参加者数	延べ 192人

この他、社会教育支援として、地域や高齢者クラブ向けの出前講座等を2回行った。

5 イベント事業

(1) こどもの日イベント

ゴールデンウィーク期間中に鎧・兜の試着、紙兜作り、まが玉作り、館内ウォークラリー、野点といったイベントを開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により中止となった。

(2) 夏休みイベント

①生き物採集教室

大淀川学習館より専門職員を迎え、当館に隣接する生目古墳群史跡公園内で子どもとその保護者を対象として昆虫採集や解説を行った。

開催期日 令和2年 7月19日(日)

参加者数 29人

②夏休み特別企画「個人体験プログラム」

通常、土・日曜・祝日のみ実施している個人体験プログラムを、夏休み期間にあたる8月1日(土)～30日(日)に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により中止。

(3) 1日こども館長(事務局経営戦略課事業)

文化財や歴史に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に展示室や古墳の見学、いにしへの鏡づくりなどを体験した。

開催日時 令和2年10月18日(日)

参加者数 3人

(4) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を、地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日 令和3年3月24日(水)

内 容 和太鼓の演奏

参加者数 69人(大人37人・子ども32人)

6 資料収集、調査・研究

市民の資料に関する照会・相談を受けたほか、「令和2年度宮崎市歴史資料館 研究紀要」を刊行予定。

【宮崎市佐土原歴史資料館】

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和2年度の宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の適切な管理運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	101日
入館者数	6,381人
1日平均入館者数	63人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館（4/7～5/17、7/29～8/30、1/9～2/7）

※台風による臨時休館（9/6）

(2) 利用内訳

①入館者数（小人・大人）内訳

小人	1,099人（17.2%）
大人	5,282人（82.8%）
合計	6,381人

②入館者数（個人・団体）内訳

個人	5,681人（89.0%）
団体	700人（11.0%）
合計	6,381人

③県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	159人（26.8%）
小学校	305人（51.4%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	129人（21.8%）
合計	593人

・広域圏外

幼稚園・保育所	0人（0%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	33人（100%）
合計	33人

④ 県外団体利用内訳

一般	74人（100%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
合計	74人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
中国	1	25	33.8
関西	2	49	66.2
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	3	74	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

(1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館跡の発掘調査をもとに想像復元した「鶴松館」では、佐土原藩にまつわる掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元で伝承される佐土原人形を展示した。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近代にかけての佐土原の歴史について、各時代の資料を展示し解説した。

(2) 商家資料館 旧阪本家

江戸期から味噌や醤油の醸造販売を手がけていた商家「旧阪本家」(明治38(1905)年築重層入母屋造。市指定有形文化財・市景観重要建造物)を資料館として、1階に机や銭箱などを配した帳場を再現し、2階に当時の商いに関する資料や城下の町並みの古写真を展示した。

3 企画展示事業

(1) 企画展「生誕450年記念 島津豊久展」

令和2年は、戦国時代の佐土原城主 島津豊久が串木野で誕生して450年に当たるため、これを記念して豊久の生涯や佐土原との関わりについて紹介した。また、豊久ブームの火付け役ともなった漫画『ドリフターズ』(平野耕太氏著)の原画を展示した。

開催期日 令和2年 11月20日(金)～11月29日(日)

入場者数 延べ 2,268人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作及び城跡の自然環境を活用し、昔のくらしと文化にまつわる体験学習を、子どもとその保護者及び一般の参加者を対象に実施した。

実施回数 7回 (6講座)

参加者数 延べ 105人

※第1・4・10回の講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止

5 イベント事業

(1) 神代独楽回し大会

佐土原に江戸時代から下級武士の内職として続けられ、端午の節句のお祝いとして伝えられてきた神代独楽を使ったこま回し大会を令和3年1月10日(日)に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により中止となった。

(2) 共催事業

① 島津豊久フェスティバル～島津豊久生誕450年記念事業～

令和2年度が島津豊久の誕生から450年、没後420年に当たることから、佐土原総合支所地域市民福祉課主催で当館、城の駅「佐土原いろは館」、佐土原地区交流センターを会場に武者行列や鉄砲隊演武、トークショーなどのイベントを行った。当館では、企画展として3-(1)のとおり、「生誕450年記念 島津豊久展」及び「ドリフターズ原画展」を開催しており、県内外から多くの方が来館した。

開催期日 令和2年 11月22日(日)

入場者数 延べ 643人

② その他

例年、宮崎市佐土原城の駅いろは館(NPO法人ドンと佐土原まちおこし隊運営)と共催にて子どもを対象として5月に行っていたイベント「佐土原くじら子どもまつり」及び、佐土原地域づくり協議会と共催にて、鶴松館裏手にある花しょうぶ園で行っていた6月の「佐土原花しょうぶ祭り」については、いずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館等により中止となった。

6 資料収集、調査・研究

市民より佐土原人形や弓、西南戦争錦絵等、計33点の寄贈を受けた。また、資料収集に関連し、佐土原町域の資料調査(聞き取り、写真撮影等)を実施し、記録作業を行った。

【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和2年度の宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行うとともに施設の維持管理及び展示物等の確実な保存、保管を行うため、保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	94日
入館者数	10,355人
1日平均入館者数	110人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館（4/7～5/17、7/29～8/30、1/9～2/7）

※台風による臨時休館（9/6）

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	3,229人（31.2%）
大人	7,126人（68.8%）
合計	10,355人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	9,300人（89.8%）
団体	1,055人（10.2%）
合計	10,355人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所	12人（1.2%）
小学校	970人（94.6%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	43人（4.2%）
合計	1,025人

・広域圏外

幼稚園・保育所	0人（0%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	30人（100%）
合計	0人（100%）

④ 県外団体利用内訳

小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般（参考）	0人（0%）
合計	0人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	0	0	0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の生活ぶりや薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを資料や映像などの展示を通して紹介している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

3 企画展示事業

企画展「意外と知らない？高岡の先人たち」

数多く存在する高岡の先人の中からビタミンの父として知られる高木兼寛、初代宮崎市長の大迫元繁、宮崎市長、宮崎県知事などを歴任した二見甚郷、幕末期に高岡において天然痘の予防接種「種痘」を行った黒江綱介を取り上げ、資料とともに展示した。

開催期日 令和3年3月15日(月)～4月14日(水)

入場者数 延べ 4,215名(年度内入館者数3,432名)

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

水鉄砲やミニ門松作りなどの昔ながらの製作体験を中心とした体験学習を行うもので、主に宮崎市近郊在住の子どもとその保護者を対象に実施した。

実施回数 6回(5講座)

参加者数 延べ 75人

(2) 授業支援事業「くらしを支えた昔の道具」

当館所蔵の民俗資料(昔の道具)を活用し、小学校の社会科における「変わってきた人びとのくらし」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

対象 宮崎市、綾町、国富町内の小学校

実施回数 10回実施(10校)

参加者数 延べ 887人(教諭52人・児童835人)

(3) 高岡歴史かるたで遊ぼう

宮崎市高岡町の寺社仏閣・文化財・史跡・先人といった高岡にまつわる事柄を札とした高岡歴史かるたを用い、高岡の歴史や文化を学びながらかるた遊びを行った。

期 間 令和2年7月5日(日)～12月6日(日)全4回

※全5回の予定であったが、第2回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

講 師 高岡歴史かるた会 山口孝治氏(高岡小学校教諭)ほか2名

参加人数 延べ 49人(大人24人・子ども25人)

5 資料収集、調査・研究

資料収集としては、社日講資料をはじめとする民俗資料12点の寄贈があった。また、資料収集に関連して資料調査(聞き取り、写真撮影等)を実施し、記録作業を行った。

大淀川学習館

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	240日
入館者数	52,759人
1日平均入館者数	220人

※台風による臨時休館 1日間 (9/6)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館 61日間
(4/7～5/17、1/9～2/7)

(2) 利用内訳

① 入館者数 (小人・大人) 内訳

小人	29,072人 (55.1%)
大人	23,687人 (44.9%)
合計	52,759人

② 入館者数 (個人・団体) 内訳

個人	49,257人 (93.3%)
団体	3,502人 (6.7%)
合計	52,759人

③ 県内団体利用内訳

・ 広域圏内 学校団体

幼稚園・保育所	1,211人 (57.7%)
小学校	858人 (40.9%)
中学校	0人 (0.0%)
高等学校	0人 (0.0%)
大学・短期大学	0人 (0.0%)
特別支援学校	29人 (1.4%)
合計	2,098人

・ 広域圏外 学校団体

幼稚園・保育所	16人 (2.4%)
小学校	650人 (95.7%)
中学校	13人 (1.9%)
高等学校	0人 (0.0%)
大学・短期大学	0人 (0.0%)
特別支援学校	0人 (0.0%)
合計	679人

・ 一般団体

医療・福祉	667人 (92.0%)
教育	0人 (0.0%)
その他	58人 (8.0%)
合計	725人

④ 県外団体利用内訳

小 人	0 人
大 人	0 人
合 計	0 人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	0	0	0
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
全国	0	0	0
海外	0	0	0
合計	0	0	0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 展示事業

(1) 常設展示

大淀川流域の自然や文化、歴史などについて、虫眼鏡や顕微鏡を用いて見ること、標本やはく製等へ直に触れること、身近な動植物への新たな気づきを楽しむことを通して、学びを深めるための展示を行っている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、パソコンや顕微鏡などの直接触れる展示物を一時撤去し、見て学べる展示物を中心に工夫した。

(2) 生体展示

① 自然^{がくしゅう}楽習園

自然^{がくしゅう}楽習園では、子どもたちの自然観察力を向上させるため、季節に応じてチョウの食草や蜜源植物を設置し、令和2年度は、年間4,474頭を放蝶することで、常時30～100頭を自然環境に近い状態で観察できるように維持した。また、学習効果を高めるために、解説板の設置や蜜源植物の新規導入や設置レイアウトの工夫を行った。

② 生体展示ホール

大淀川の上流から日向灘までのつながりを一体的に学ぶ場として、小型水槽と大型水槽では、大淀川の上流域から河口域にかけて生息する魚を、円型水槽においては、日向灘に生息する海洋生物を展示した。大淀川固有種のオオヨドシマドジョウ等の希少な生体からカニやカメ等の身近な生き物まで幅広くそろえ、子どもの興味や視線の高さ、季節等に応じて、随時、配置換えを行った。

③ ホタル展示室

水質保全意識の向上を図るため、清流の象徴であるゲンジボタルを展示した。成虫だけではなく、卵や幼虫、蛹の展示も行い、解説や飼育体験を通して、子どもたちの学習機会を確保した。宮崎市環境保全課や宮崎市内の各地区ホタル保存会と連携・協力を図りながら、ホタルビオトープ水槽等を活用して館内羽化率向上に取り組んだ。令和2年度は、館内空調の故障により、温度管理に不具合が生じたため目標に届かなかったが、今後も継続して羽化率向上に取り組んでいく。

(3) 企画展示

① 特別企画展 「水の生き物と仲良くなろう！ザリガニ展」

内 容 子どもたちが、水に親しむ遊びの文化を体験的に理解するため、身近に体験する機会や場所が少なくなりつつあるザリガニ釣りを体験できるプールを設置した。また、生命尊重や環境保全意識の向上、在来種と外来種に関する正しい知識の普及を図るため、青や白など、特殊な色のアメリカザリガニを展示、解説パネルやミニ講座等を準備していた。

開催期日 令和2年4月28日（火）～令和2年6月7日（日）

入場者数 延べ 0人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止

② 企画展 「カラー魚拓への誘い」

内 容 サカナの特徴に興味をもち、生物を題材とした文化活動への関心を高めるため、サカナの色や形、模様などを鮮やかに表現することができるカラー魚拓を、地元愛好家の協力を得て展示した。

開催期日 令和2年6月16日（火）～令和2年7月12日（日）

入場者数 延べ 6,680人

③ 特別企画展 「森の生き物と仲良くなろう！カブトムシ・クワガタムシ展」

内 容 子どもたちが、生命の尊さや生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、例年好評な大淀川流域に生息するカブトムシやクワガタムシに関する企画展を実施した。令和2年度は、感染症対策により、実際に生体に触れていただく体験の実施が難しかったため、見て理解できる展示を工夫した。また、生態系維持の重要性や在来種と外来種に関する正しい知識の普及啓発を図るため、外国産の生体も同一会場内に展示し、パネルやミニ講座等による解説を行った。

開催期日 令和2年7月18日（土）～令和2年8月30日（日）

入場者数 延べ 12,013人

④ 企画展 「よく見てみよう！ちよっぴりこわい生き物展」

内 容 命の尊さや新たな発見の喜びを感じて、生物の多様性や役割を理解するため、一般的に嫌悪されがちなヘビやゴキブリ、ムカデ等を展示し、観察する機会を設けた。

開催期日 令和2年9月19日（土）～令和2年10月31日（土）

入場者数 延べ 8,193人

- ⑤ 特別企画展 「身近な生き物と仲良くなろう！金魚・メダカ・カメ展」
 内 容 身近な生物と触れ合うよさを感じたり、人と動植物のつながりについて考えたりするために、古くから親しまれ家庭でも比較的簡単に飼育できる金魚やメダカ、カメ等について、生体展示やパネル展示を行った。
 開催期日 令和2年11月5日（木）～令和2年12月6日（日）
 入場者数 延べ 5,091人
- ⑥ 企画展 「県産材積み木で遊ぼう！」→「職員による積み木チャレンジ展」
 内 容 宮崎県産材製の「からから積み木」を約20,000個準備し、自由に作品づくりを行いながら、宮崎の豊かな自然に気づく機会としたかったが、感染症対策のため自由に触れていただくことはできなかった。代わりとして、職員の積み木作品を展示し、来館者に見ていただいた。
 開催期日 令和3年2月23日（火・祝）～令和3年3月5日（金）
 入場者数 延べ 2,622人
- ⑦ 企画展 「変身しよう！みんなの（寝ころび）→（生き物）アート展」
 内 容 SNSフォトスポット需要の高まりを受け、乳幼児期から親子で自然に親しむきっかけとするため、自然を感じつつ、写真撮影を通じた文化活動にも触れることができる会場を設けた。感染症対策のため、「寝ころびアートコーナー」を「立体アートコーナー」に変更して実施した。
 開催期日 令和3年2月9日（火）～令和3年3月14日（日）
 入場者数 延べ 7,257人
- ⑧ 企画展 「春一番！ひな山展」
 内 容 大淀川流域の民俗文化への興味・関心を高めるために、大淀川清流域の綾町で育まれた「ひな山」をエントランスホールに展示した。
 開催期日 令和3年2月9日（火）～令和3年3月14日（日）
 入場者数 延べ 7,257人

（4）作品募集と展示

- ① 作品展 第26回 大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展
 内 容 大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集し、入賞作品を展示した。
 応募数 1,146点
 開催期日 令和2年10月6日（火）～令和2年11月11日（水）
 入場者数 延べ 6,838人

(5) 川のシアター

内 容 大淀川の自然環境への興味・関心を高めるため、6本のオリジナル番組（A 大淀川の自然を訪ねて、B 大淀川の水と生き物たち、C 大淀川の生き立ちと生き物、D 母なる川～大淀川～、E 大淀川水辺のおさんぽ、F 大淀川の虫たち）に加え、昨年度作成した2番組（G ダイビング in 南郷、H 日向灘の海）を立体ハイビジョンにて上映した。

上映回数 92回

観覧人数 延べ 1,596人

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対策や臨時休館のため、上映回数が大幅に減少した。

令和元年度（上映回数：1,270回 観覧人数：延べ27,025人）

(6) 里山の楽校^{がっこう}

古来より、人が里山を通じて自然の恩恵を受けながら生活を送ってきたことについて理解し、身近な自然環境を大切にすることを育むために、多目的施設「杉の家」を中心として、里山を再現したフィールドを維持し、教室事業等において活用を図った。また、学習支援に利用する地層コーナーや、自然楽習園を維持するために必要な第2食草園についても一体的に管理している。

3 学校対応事業

学校、幼稚園等の教育課程に沿った支援活動を行うことによって、教育効果を高めることを目的として実施した。

(1) 授業支援

対 象 小学校等

実施回数 3回

参加者数 延べ 128人

内 容 チョウの生態や地層等の学習について、本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行うものである。

(2) 指導者支援

対 象 小・中学校教諭等

実施回数 0回

参加者数 延べ 0人（申込数18名）

内 容 チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容について、講義や演習を行うものである。令和2年度は全て中止となったが、資料・教材配付のみ実施した。

4 団体対応事業

(1) 子ども会・PTA・学童保育等への支援

対 象 子ども会・PTA・学童保育等
実施回数 0回
参加者数 延べ 0人
内 容 展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な工作活動を行うものである。

(2) 出前授業等

対 象 児童館や地域づくり協議会等
実施回数 10回
参加者数 延べ 214人
内 容 植物を使ったものづくりや野外活動・生き物の講座を行った。

5 教室事業

自然に対しての興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

(1) 環境教室

対 象 小学生以上
実施回数 2回（3回は中止）
参加者数 延べ 12人
内 容 「ホテル環境教室」を1回、「川の生き物で水質環境調査」を計3回、「自由研究にぴったり！浄水場見学会」を1回計画した。実施できたのは、「川の生き物で水質環境調査」2回のみであった。

(2) 飼育・観察教室

対 象 小学生以上
実施回数 11回（全15回の内、4回は中止）
参加者数 延べ 138人
内 容 「メダカの飼育・観察教室」「目指せ！ムシはかせ（水辺の楽校）」「目指せ！ムシはかせ（里山の楽校）」「カブトムシ・クワガタムシの飼育・観察教室」を行った。

(3) 活動教室

対 象 小学生以上
実施回数 3回（「アユの稚魚放流しよう！」は中止）
参加者数 延べ 30人
内 容 「ハーブティーを楽しもう！」「シイタケの駒打ちをしよう！」「食べられる野草を探してみよう！」を行った。

(4) ものづくり教室

対 象 小学生以上
実施回数 5回
参加者数 延べ 63人
内 容 「昆虫標本を作ろう！」「植物標本を作ろう！」「野鳥の巣箱を作ろう！」「ミツロウでオリジナルキャンドルを作ろう！」「カラー魚拓を制作しよう！」を行った。

(5) 園児教室

対 象 幼稚園や保育園、子ども園等の園児
実施回数 13回
参加者数 延べ 353人
内 容 生き物の話を聞いたり、見たりする活動を行った。

6 イベント事業

大淀川学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的とした事業である。

(1) 季節のイベント

対 象 全来館者（内容により年齢制限を設けているものもある）
実施回数 0回（全て中止）
参加者数 延べ 0人
内 容 「カブトムシの幼虫を育てよう!」「カブトムシの木登り大会」「クワガタムシのすもう大会」「ふれあいもちつき大会」「クリスマスコンサート in 大淀川学習館」「積み木でドミノにチャレンジ」を計画した。

(2) わくわく工作

対 象 全来館者
実施回数 33回
参加者数 延べ 481人
内 容 大淀川流域の自然や文化をテーマにして、家族で楽しみながら創作を行うイベントを、毎月第2・4土曜日に2回ずつ実施した。休館等により多くの回が中止となった。
（工作内容の例：「ミニ鯉のぼりを作ろう」「新聞紙でかぶと飾りを作ろう」「針金アメンボを浮かせよう」「紙コップでゲコゲコガエルを作ろう」「折り紙で水族館をつくろう」「七夕飾りを作ろう」等）

(3) 講演会

対 象 全来館者
実施回数 1回
参加者数 延べ 27人
内 容 新型コロナウイルス感染症の拡大により、講師の選定等が難しくなったため、「聞いてみよう！生き物のお話」と題して、大淀川学習館職員5名が講師となり講演会を実施した。

7 その他の事業

(1) 学校教育及び幼児保育等との連携

幼稚園や保育園等の園外活動や小中学校の校外学習など、見学時の要望に応じて、自然環境や生物についての講話や体験活動等を提供した。また、中学校や高等学校の職場体験学習や大学の博物館実習等についても積極的に受け入れた。

来館学校

幼稚園	15 団体	延べ来館者	537 人
保育園	20 団体	延べ来館者	570 人
幼保連携型認定こども園	6 団体	延べ来館者	120 人
小学校	23 団体	延べ来館者	1,508 人
中学校	1 団体	延べ来館者	13 人
高等学校	0 団体	延べ来館者	0 人
特別支援学校・大学・短大	3 団体	延べ来館者	47 人
合計	68 団体	延べ来館者	2,795 人

(2) カブトムシの幼虫プレゼント(宮崎科学技術館との連携)

宮崎科学技術館のこどもの日無料開館に合わせ、科学技術館の受付にて「カブトムシの幼虫プレゼントチケット」を配布し、翌日、大淀川学習館にチケットを持参した子どもにカブトムシの幼虫(館にて採卵又は採集の後、飼育したもの)をプレゼントする計画をした。

開催期日 令和2年5月5日(火)

参加者数 0人 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止

(3) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

協会が管理運営する6施設において、乳幼児とその保護者が気軽に参加できる演奏会を行い、各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とするものである。

期 日 中止

参加者数 0人

(4) 1日こども館長(事務局経営戦略課事業)

河川及びその周辺の自然等に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和2年12月12日(土) 小学生5名

(5) 各種関係団体との連携 () 内は団体等の名称

- ①アユの稚魚を放流しよう 実施日 中止
(宮崎県内水面振興センター) 入場者数 0人
- ②自由研究にぴったり!浄水場見学 実施日 中止
(宮崎市上下水道局:富吉浄水場) 入場者数 0人
- ③クリスマスコンサート 実施日 中止
(宮崎市立宮崎北中学校) 入場者数 0人
- ④ふれあいもちつき大会 実施日 中止
(水源地団地自治会) 入場者数 0人
- ⑤カラー魚拓を制作しよう 実施日 令和2年7月5日(日)
(色彩魚拓画会) 入場者数 子ども3人、大人4人、計7人
- ⑥しいたけの種駒打ちをしよう 実施日 令和3年2月28日(日)
(宮崎中央森林組合) 入場者数 子ども4人、大人7人、計11人

(6) 情報提供と広報活動

ICT(情報通信技術)を積極的に活用し、SNS(ブログ、フェイスブック)を用いた情報提供や広報活動を行った。

また、宮崎市水道局の広報誌「せせらぎ」の36号(令和元年8月号)~41号(令和4年2月号)まで、宮崎市役所のYouTubeチャンネルと連動した「みやざき水辺の生き物図鑑」の企画・製作に全面協力することとなっている。

宮崎市民プラザ

1 管理運営事業

令和2年度は、当協会が宮崎市民プラザの指定管理者として再指定を受けて2年目となる。管理運営については、「公平・公正な管理運営」「満足度の高い管理運営」「安心・安全で効率的な管理運営」の3つの基本方針を定め、施設の管理運営に努めたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う施設の利用制限等が影響し、入館者数は激減した。

(1) 利用状況

開館日数	286日
入館者数	84,410人
1日平均入館者数	295人

(2) 利用内訳

- ・ 1階 オルブライトホール 13,851人 (利用率 47.47%)
- ・ 4階 ギャラリー 12,005人 (利用率 68.59%)
- ・ 4階 練習室① 4,775人 (利用率 53.50%)
- ・ 4階 練習室② 1,038人 (利用率 58.44%)
- ・ 4階 大会議室 7,901人 (利用率 78.37%)
- ・ 4階 中会議室 4,368人 (利用率 76.68%)
- ・ 4階 小会議室① 2,831人 (利用率 79.08%)
- ・ 4階 小会議室② 2,249人 (利用率 71.99%)
- ・ 4階 和室 1,733人 (利用率 73.66%)
- ・ 4階 学習室 2,786人 (利用率 69.72%)
- ・ 1階 授乳室／2階 プレイルーム 18人 ※プレイルームは閉鎖
- ・ 1階 カフェクレーン 2,371人
- ・ 1階 エントランス 2,114人
- ・ 3階 宮崎市民活動センター 14,344人
- ・ 3階 各団体室 5,531人
- ・ ホール打合せ 190人
- ・ ギャラリー打合せ 78人
- ・ 窓口受付 5,972人
- ・ 視察者等 255人 (59団体)

合計 84,410人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための利用制限

- ・ 令和2年4月7日(火)～5月24日(日)
- ・ 令和2年7月30日(木)～9月14日(月)
- ・ 令和3年1月9日(土)～2月7日(日)

※調光操作卓更新工事によるオルブライトホール貸館停止

- ・ 令和3年2月23日(火)～3月28日(日)

2 文化芸術企画事業

文化芸術企画事業については、「市民文化の振興」「若い世代へのアプローチ」「文化芸術活動への支援」の3つの取組方針を定め、鑑賞型や創造・参加型、普及・育成型などの様々な形で事業に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う施設の利用制限等により、事業の中止や延期を余儀なくされた。

(1) チェロとピアノによるソーシャルディスタンス・コンサート【新規】

新型コロナウイルスの影響による様々な自粛を強いられる中、心身をリフレッシュしてもらうため、チェロとピアノの生演奏コンサートを実施した。

- ・日 時 令和2年7月5日(日) 13:00開場 14:00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 土田浩(チェロ)、土田悦子(ピアノ)、濱砂月奈(チェロ)
- ・入場料 無料
- ・入場者数 78人 ※収容人数を93人に制限

(2) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

乳幼児とその保護者に生の音楽を身近に感じてもらうため、乳幼児と保護者を対象にテレビアニメの主題歌や童謡などのコンサートを実施した。

- ・日 時 令和2年7月16日(木) 10:00開場 10:30開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 音楽ユニット「おとのいろ」(ピアノ、フルート)
- ・入場料 無料
- ・入場者数 133人(子ども59人、保護者74人) ※収容人数を50組に制限

(3) 夏休み!バックステージ体験

普段は入ることのできないオルブライトホールの裏側や舞台職員の業務を見学・体験し、舞台機構や文化施設を身近に感じてもらうため、小学生親子を対象にバックステージツアーを実施した。

- ・日 時 令和2年7月23日(木・祝) ①14:00~16:00
②18:30~20:30
- ・場 所 オルブライトホール
- ・進行等 本田誠人、本田泉、中野弥生、吉丸裕美、宮崎南高等学校演劇部
- ・参加費 200円
- ・参加者数 36人(子ども18人、保護者18人)

(4) 演劇公演「群青」ワークショップ【新規】

新型コロナウイルスの影響で演劇公演「群青」を中止した代わりとして、高校生を対象に演劇ワークショップを実施した。

- ・期 間 令和2年7月から12月までの全7回
- ・場 所 オルブライトホール、ギャラリー
- ・講 師 本田誠人、本田泉、中野弥生、濱田明良、吉丸裕美、山口紗嬉、濱田龍司
- ・参加費 無料
- ・参加者数 13人(演劇公演「群青」の出演者募集に申し込みのあった高校生)

(5) **andante** 第1回公演「友達」【共催事業】

市民プラザの運営方針に合致し、文化芸術の普及振興に寄与する市民や団体等の自発的な活動と連携し、広報及びチケット販売等の協力により支援を行った。

- ・主 催 **andante** (アンダンテ)
- ・内 容 安部公房の代表的戯曲「友達」を、ピアノとチェロの生演奏とともに、独自の世界観で描き出す演劇作品。
- ・日 時 令和2年10月17日(土) 18:00開場 19:00開演
令和2年10月18日(日) 13:00開場 14:00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 大迫紗佑里、壺馬、グンジキナミ、斎藤建郎、坂口浩平、冨森慧子、三門佳太、満留萌々子、村田みさき、村田遼太郎、元浦由宇汰、山口由美、やまだげんごろう、服部響(ピアノ&キーボード)、浜砂なぎさ(チェロ)
- ・入 場 料 一 般/前売2,000円(当日2,000円)
高校生以下/前売1,000円(当日1,000円)
ペ ア 割/前売3,000円
- ・入場者数 17日(土) 105人 ※収容人数を150人に制限
18日(日) 86人 ※収容人数を150人に制限

(6) 1日子ども館長(事務局経営戦略課事業)

文化芸術に対する興味関心を高め、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に「市民プラザ寄席」公演での職場体験を実施した。

- ・日 時 令和2年11月23日(月・祝) 10:00~15:05
- ・場 所 オルブライトホール
- ・参加費 500円(保険・昼食代込)
- ・参加者数 3人(4年生2人、5年生1人)

(7) ユニット「あんでな」10周年記念 あんでな文化祭【共催事業】

市民プラザの運営方針に合致し、文化芸術の普及振興に寄与する市民や団体等の自発的な活動と連携し、広報及びチケット販売等の協力により支援を行った。

- ・主 催 ユニット「あんでな」
- ・内 容 ユニット「あんでな」設立10周年を節目として、これまでの活動に関わってきた演劇・音楽・ダンスなど様々な分野の方々が出演し、ユニット「あんでな」の歴史を振り返る文化祭。
- ・日 時 令和2年12月13日(日) 13:30開場 14:00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 ユニット「あんでな」、い〜な♪、演劇公演「群青」ワークショップ参加者、チックタックパーク、朗読劇「ふたり」、チャルネイロ
- ・入 場 料 一般/前売2,000円(当日2,500円)
学生/前売1,000円(当日1,500円)
- ・入場者数 115人 ※収容人数を180人に制限

(8) 第14回市民プラザコンサート～音！楽！喜！！～with you

気軽に楽しめる趣向を凝らしたコンサートの開催を通して音楽文化の振興を図るため、地元宮崎で活動・活躍する様々なジャンルのアーティスト3組によるコンサートを実施した。

- ・日 時 令和3年2月13日(土) 16:30開場 17:30開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 河野敦子・押川洋樹・土田悦子、大西映光エレクトリカルバンド、Skywalkers
- ・入場料 無料
- ・入場者数 131人 ※収容人数を243人に制限

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止

- ・演劇公演「群青」【新規】
- ・土田浩とみやざきのチェリストたち～藤森亮一氏を迎えて～【共催事業】
- ・子どものための文化芸術体験プログラム(アウトリーチ事業)
- ・桂歌春の落語教室(アウトリーチ事業)

3 自主事業

市民プラザが開館して20周年を迎えたことから、過去の公演で好評であったり再演を望む声のあった事業を開館20周年記念事業として実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う施設の利用制限等により、1事業については延期を余儀なくされた。

(1) 開館20周年記念事業 市民プラザ寄席「とざい、とーざい花ざかり」

気軽に楽しめる落語を通して、古典芸能への興味関心を高めるため、宮崎県出身で落語家の桂歌春さんがプロデュースした豪華メンバーによる寄席を実施した。

- ・日 時 令和2年11月23日(月・祝) 13:00開場 14:00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 桂文枝(落語)、柳家さん喬(落語)、桂歌春(落語)、U字工事(漫才)、柳亭小痴楽(落語)
- ・入場料 指定/前売4,000円(当日4,800円)
- ・入場者数 254人 ※収容人数を254人に制限

(2) 開館20周年記念事業 松本紀生アラスカ・フォトライブ

写真家の松本紀生さんによる、大自然の写真や動画と野生動物の貴重な生態を捉えたエンターテインメントスライドショーを実施した。

- ・日 時 令和2年12月19日(土) 15:30開場 16:30開演
令和2年12月20日(日) 15:30開場 16:30開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・解 説 松本紀生(写真家)
- ・入場料 子ども対象/前売500円(当日600円)
大人対象/前売1,000円(当日1,200円)
- ・入場者数 19日(土) 子ども対象98人 ※収容人数を248人に制限
20日(日) 大人対象157人 ※収容人数を248人に制限

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期

- ・開館20周年記念事業 オーケストラ・リクエストコンサート【新規】

4 企画推進委員会

地域の文化芸術団体や文化NPO、マスコミや大学教授など11人の方々に委員を委嘱し、様々なジャンルの団体との意見交換やヒアリング等により事業に対するニーズの把握に努めるとともに、市民プラザ主催事業に対するアドバイスやサポートをいただき、年間計画策定の参考としたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う施設の利用制限等により、第1回委員会については中止を余儀なくされた。

(1) 第1回委員会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止

(2) 第2回委員会

- ・日 時 令和3年3月3日(水) 10:30~12:00
- ・場 所 市民プラザ 4階ギャラリー2
- ・内 容 ①令和2年度市民プラザ主催事業の実施状況について
②令和3年度市民プラザ主催事業年間計画(案)について